

未来志創

よっしゃ！顔晴ろう！

週末の5日（土）には富山県中学校駅伝競走大会がありました。出場した皆さん、お疲れ様でした。私も応援に行ったのですが、そこで嬉しい言葉を耳にしました。それは選手として出場していた人たちが口を揃えて「〇〇先生の声が聞こえた！あの瞬間、めっちゃパワー出た！」「応援の声を聞いたら、ペースが上がった！」と言っていたことです。中には友だちが応援に駆けつけてくれていた人もいたようです。こういう言葉を聞いたら「応援して良かったな」って思うことができます。駅伝の場合、直接声をかけられるのは目の前を走り過ぎていくほんの一瞬しかありません。「頑張れ！」という一言の力の大きさを実感できた一日でした。

だって、飛ぶんだもん

飛行機にまつわる面白い話をしましょう。

実は空気力学において、飛行機が空を飛ぶメカニズムはまだ完全には解明されていないのです。よく飛行機嫌いの人が「あんな鉄の塊が飛ぶわけがない」と言いますが、当たり前とも遠からずなんですね。

しかし、論理では証明されていなくても、飛行機は飛びます。今日も世界中の滑走路から、ち密な経験則で設計された翼が空気の渦を巻き起こし、当たり前の顔をして飛行機は離陸していきます。

人は時として「鉄が空を飛ぶわけがない」という論理など軽く凌駕し、実証の積み重ねで大きな結果を導き出してきたのです。早い話が**「だって、飛ぶんだもん」**。

これでいいんです。**人の行動にも同じことが言える**と思いませんか？

人は、何のために生まれてきたの？なんて頭の中で自問自答して完全な答えを見つける間もなく、私たちは否応なしに歩き始めます。「こんな肉の塊が動くわけがない」なんて誰も思わない。「だって生まれてきちゃったんだから」これでいいんです。

ちなみに飛行機は、**離陸するときに最も大きなエネルギーを使う**そうです。ここを乗り切れれば、あとは慣性で安定飛行に入ることができるのです。

滑走を始めた飛行機が「この速度を超えると離陸を中止することができない」という限界の速度を**「決心速度」**と言います。この速度を超えて停まろうとすると、滑走路をオーバーランする臨界点のことです。つまり、飛行機は決心速度を超えた時点で必ず離陸しなければならないのです。

さてこの**「決心」**という言い方、あたかも飛行機自身が意志を持って飛び立つような印象を与えて、なかなか面白い言葉です。実際、飛行機に乗っていると、トロトロとやる気なさそうに滑走路を移動していた機体が、しばしの助走の後いきなり本気を出したように離陸態勢に入るその瞬間、**飛行機がまるで思い切って飛び立つ「決心」をしている**ように感じるのは私だけでしょうか。

機首がクイツと持ち上がり、体がシートに押しつけられて一気に機体が上昇する。その流れの中にいると、メカニズムが解明されていない謎の答えは、もしかしたら飛行機自身の**「飛び立つ意志」**にあるんじゃないかと心のどこかで信じてしまうものです。

『一天地六の法則』（カカトコリ）より

私たちも日々多くの選択をしています。何気なく選択していることの方が多いかもしれませんが、中には、たくさん悩んだ末に「よし！やる！」と「決心」して選択したこともあるかもしれませんね。その一つにあるのが「生徒会役員選挙」ではないでしょうか。今日から選挙運動が始まります。この2学年からも2人が立候補してくれています。先日も、多くの方がポスター作りに協力してくれていました。ありがとうございます。学年全員で、応援していきたいですね。